



# 光が丘第二中学校 学校だより

## 特別号

- 1 全国学力・学習状況調査」(3年)結果
  - 2 都学力向上を図るための調査」結果
  - 3 東京都生徒体力・運動能力・運動能力調査」結果
- (概要)

### 1 全国学力・学習状況調査」(3年)結果

国語	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
光二中	91	9.6 / 14	69	10.0	2.8
東京都	70,017	9.4 / 14	67	10.0	2.8
全国	903,157	9.0 / 14	64.6	9.0	2.8

数学	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
光二中	91	9.7 / 16	61	11.0	3.7
東京都	70,014	9.6 / 16	60	10.0	3.7
全国	903,253	9.1 / 16	57.2	10.0	3.7

本校の平均正答率は「学習指導要領の領域等」「評価の観点」「問題形式」の分類すべてにおいて、国公立中学校の平均正答率を上回った。しかし、東京都公立中学校の平均正答率に比べると「学習指導要領の領域等の話すこと・聞くこと」「評価の観点別の書くこと」の区分で下回った。

「話すこと・聞くこと」では、「参加者の誰がどのようなことについて発言するとよいかと、そのように考えた理由を書く」問題でミスが見られる。また、「話し合いでの司会の発言の役割について説明したものとして適切なものを選択する」問題で全国の前正答率を下回った。

「書くこと」では、「意見文の下書きを直した意図として適切なものを選択する」問題でミスが見られる。

これは「生徒質問紙」の調査結果にある「国語の授業では、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり表現を工夫して書いたりしていますか」の回答結果として当てはまる割合が73.6%と、東京都76%、全国74.6%より低いことや、「国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり必要に応じて質問したりしていますか」の解答結果として当てはまる割合が61.6%と、東京都63.2%、全国61.3%より低いことも関連している。

以上のことから、根拠を明確にして論理的に説明する力や、目的や必要に応じて適切に表現する力を伸ばしていくことが必要である。

本校の平均正答率は、「学習指導要領の領域」・「評価の観点」・「問題形式」という分類のすべてで、全国公立中学校の平均正答率を上回った。しかし、東京都公立中学校の平均正答率と比べると、「学習指導要領の領域の数と式」、「評価の観点の見方や考え方」、「問題形式の記述式」の区分で下回った。

「数と式」の問題では、多項式の減法の問題でミスが見られる。また、数量の関係を一元一次方程式で表す問題に課題があった。

「見方や考え方」と「記述式」の問題では、整数に関する説明問題と図形に関する説明問題が東京都公立中学校の平均正答率を下回った。問題から読み取れることや根拠は何なのか、また、論理立てて説明をする力に課題が見られた。いずれも、このような内容の問題に解き慣れていないことが正答率を下げる要因になっていると思われる。普段から、解いた問題があった、間違っていたで終わることのないように、どのように考えて解いていくのか、自分のことばで説明できる力が求められている。

**3年生 意識調査の結果から**

①「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。」という質問に対して、全国、東京都は約36%が「している」と回答していたが、本校の「している」の解答は約25%である。また、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」という質問に対しては、全国、東京都は約58%が「している」と回答しているが、本校の「している」の回答は約41%である。このことから、睡眠時間の確保が曜日によって異なることが伺える。

②「自分にはよいところがあると思いますか。」「将来の夢や目標を持っていますか。」「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか。」「難しいことでも失敗を恐れずに挑戦していますか。」という質問については、「当てはまる」の回答が全国、東京都と比べると約10%低い。このことから、コロナで行事が少なくなった影響を受けて、積極的に関わろうという自己肯定感がやや乏しくなっているようである。素直に受け入れる生徒たちが多いため、来年度には、様々な行事で活躍する場を設けたい。

③「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、一日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)」「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)」という質問に対して、全国、東京都に比べると、「3時間以上」「4時間以上」という回答が10%以上高い。このことから、学習することが日常生活の中で当たり前になっている生徒が多いと分析できる。ご家庭の学習への関心度の高さが伺える。

## 2 都学力向上を図るための調査結果から

(実施日 令和3年11月21日～)

今年度より東京都では児童・生徒の学びに向かう力等に関する意識調査および学校の指導方法の分析による成果と課題を検証し、指導のさらなる充実や組織的な授業改善等に役立てるとともに、そのような取組を通じて児童生徒の学力向上につなげていくことを目的として「児童生徒の学力向上を図るための調査」を東京都の全公立小中学校で実施しました。

本校ではその調査結果と5教科(国語・社会・数学・理科・英語)による分析を各教科3観点に則り、教科部会で検証しまとめたものをここに公表いたします。

ご家庭においても、お子様の個人表をもとに、今後の学力向上に向けた取組につなげていただければと思います。以下は各教科の分析結果のまとめです。

<国語> (1は「知識・技能」の観点、2は「思考・判断・表現」の観点、3は「主体的に学習に取り組む態度」の観点)

1	<p>&lt;成果&gt;・「他の人の話を聞くときは、メモを取って理解するようにしている」、「他の人が書いた文章のよい点を取り入れて書くようにしている」など工夫して取り組んでいる。</p> <p>&lt;課題&gt;・部首の意味を考えること、似た意味や反対の意味の漢字、使われている熟語などを確かめながら覚えること、また一つの漢字から派生して主体的に学習する習慣などが身に付いていない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テストで間違えた漢字を選んで練習することや、どこを間違えたのかを確かめる取組が足りない。間違えた後の復習を徹底する必要がある。</li> </ul>
2	<p>&lt;成果&gt;・「発表や話し合いの時は、内容や順序を考えて話している」、「自分が書いた文章を読み返し、わかりやすい表現になるように書き直す」など、分かりやすく伝える表現の工夫を行うことができている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「目的に応じて文章を読み、内容を解釈して自分の考えを広げたり深めたりする」などの文章読解について、学ぶ力が身に付いている。</li> </ul> <p>&lt;課題&gt;・自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表現する力はやや乏しい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文章を読んで理解したことや考えたことなどを他の人に説明すること、目的に応じて自分の考えを話したり必要に応じて質問したりすること、また目的に応じて自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり、表現を工夫して書いたりする力がやや低いため、伝え合う学習を積極的に取り入れていく必要がある。</li> </ul>
3	<p>&lt;成果&gt;・教科の重要性に対する意識は都や全国より高く、将来に役立つ重要な教科として位置付けている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読書量も1日30分以上読書する割合は都や全国より高めである。今年度から取り入れた朝読書が読書週間につながっているものと捉えたい。また読書を習慣化している生徒の割合が都や全国より高い。</li> <li>・文章を書く問題では、最後まで回答しようと努力した割合が高く、粘り強い取組ができている。</li> </ul> <p>&lt;課題&gt;・全国学力調査の平均正答率は都や全国より高い一方で、国語が好き、国語が得意という生徒の率は低くなっている。国語の楽しさを味わい「できた」という実感を味わえる授業の工夫が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・繰り返し書いて覚える漢字練習はやや低めであり、粘り強く覚える生徒が少ない。また似た意味や反対の意味の漢字、使われている熟語などを確かめながら覚える率も低く、発展的学習に結びついた学習になっていない現状がある。</li> </ul>

<社会>

1	<p>&lt;成果&gt;・学習における理解度は都を大きく上回っていた。また「社会が得意またはどちらかといえば得意」の率も都を大きく上回っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業に熱心に取り組む生徒が多く、社会に対する興味関心の高さを授業内でも感じる。</li> </ul> <p>&lt;課題&gt;・本校独自の比較として理解度に比べると得意とする率が低い。定期考査や模擬試験などでの得点が高くなれば、差を無くすことができると考えられる。基礎的な知識の習得を授業内で図っていく。</p>
---	---

2	<p>&lt;成果&gt;・今年度より単元ごとに振り返りを行っている。そのため文章で表現する力がついてきていることが定期考査結果からわかる。</p> <p>・授業内でダイベートを取り入れたことで資料やデータから意見を構築することができるようになってきている。</p>
	<p>&lt;課題&gt;・他教科で学習した内容を生かして考える割合は、都に比べて低かった。授業内で教科横断的な指導を心がけていく必要がある。</p>
3	<p>&lt;成果&gt;・自主学習ノートを作り、定期考査前に提出する生徒がいて、その数が徐々に増えている。</p>
	<p>&lt;課題&gt;・家庭学習で「教科書やノートを読み返して振り返りを行っている」という生徒が約半数を超える程度である。定期考査に向けて授業を再現できるようなノートを作成することを引き続き指導していく。</p>

## <数学>

1	<p>&lt;成果&gt;・「知識・技能」は定着している。三角形の合同条件や相似条件をクラス全員に発表させたことで短時間に身に付けることができた。特に基礎クラスでは、覚えてきたことによって自信がつき意欲につながった。</p>
	<p>&lt;課題&gt;・さらに定着させるためには小テストの実施が有効である。年度当初からの計画が必須と考える。</p>
2	<p>&lt;成果&gt;・難問を解く力が備わっている生徒が、学年を追うごとに多くなっている。</p>
	<p>&lt;課題&gt;・苦手意識をもった生徒が多く、諦めてしまう傾向がある。学習動機を高めるために生徒同士伝え合い教え合いの時間をとる必要がある。年間計画の中に明確に盛り込んでいく。</p>
3	<p>&lt;成果&gt;・記述式テストを行ったことで、答えを出すだけでなくその過程を表現することの大切さを伝えることができた。</p>
	<p>&lt;課題&gt;・日々の学習の中で生徒同士が伝え合う時間の確保が必要である。また発表やグループ学習も工夫して取り入れる必要がある。平行して学力の高い生徒を伸ばすことができるかについては懸念される。</p> <p>・主体的に取り組ませるために、家庭学習の必要性を感じさせたい。まずは具体的な家庭学習の方法を伝えていく。</p>

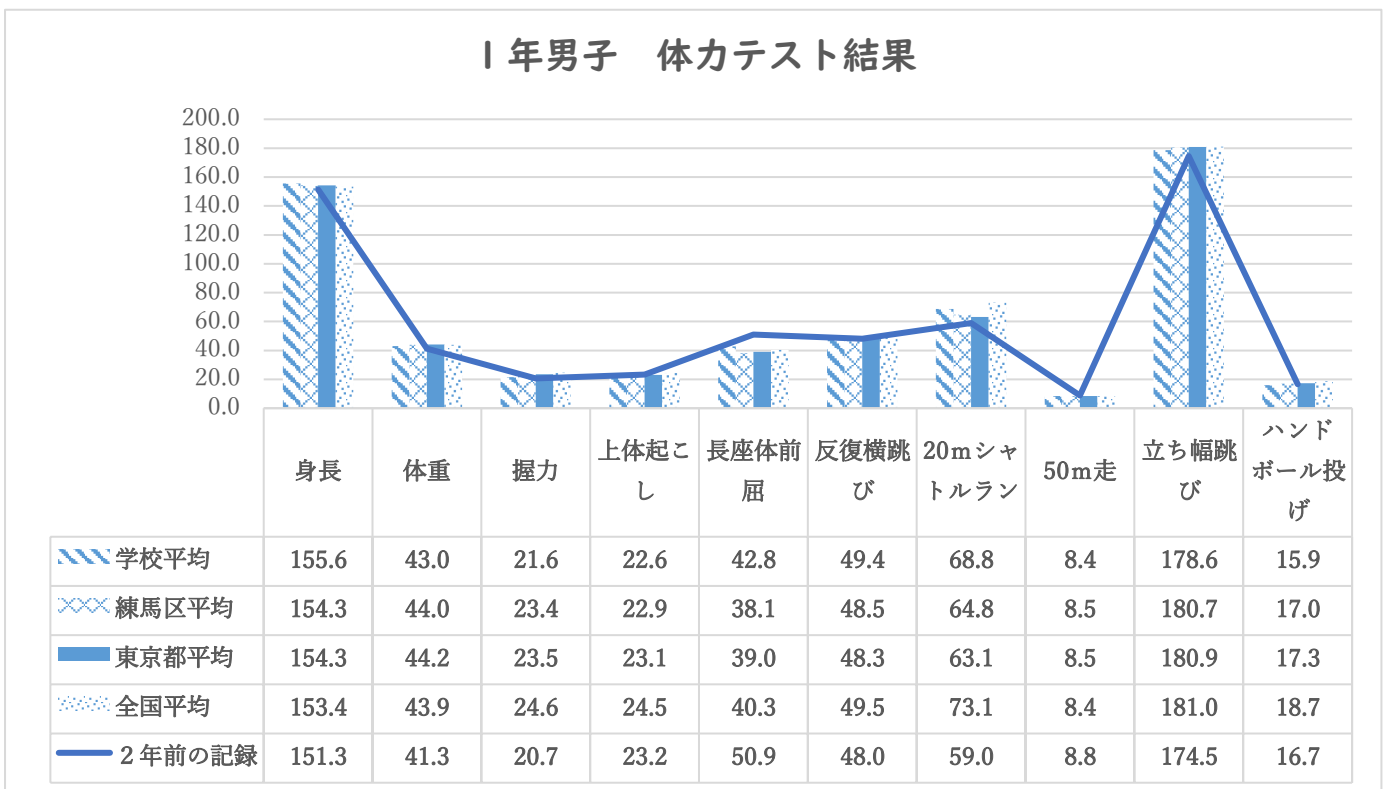
## <理科>

1	<p>&lt;成果&gt;・学習内容の理解度は都よりも若干高い。また「理科が得意」「どちらかといえば得意」と答えた生徒は半数を超えている。</p> <p>・実験器具のパフォーマンステストでは良好な技能を発揮している。</p>
	<p>&lt;課題&gt;・「よくわかる」については都の数値を若干下回り、理科を傑出して得意とする生徒の育成が課題である。</p>
2	<p>&lt;成果&gt;・自校作成の学力試験問題（1年胚珠、2年電磁誘導、3年仕事率）などの専門的・科学的な単語についてはよく理解できている。</p> <p>・科学的な思考を実験レポートなどを通して繰り返し表現させているので、回数を重ねるごとに「思考力・判断力・表現力」のレベルアップにつながっている。</p>
	<p>&lt;課題&gt;・学年を追うごとに数値表現を伴う処理が増えていくが、それを苦手とする生徒も増えていく。生徒が理解しやすい教材の研究が必要である。</p>
3	<p>&lt;成果&gt;・授業内で教師側から出された課題に積極的に取り組む様子をうかがうことができた。その裏付けとして学習方法を工夫して問題や活動に取り組むことができたという割合が8割近くを占め、主体的な態度の育成につながっている。</p>
	<p>&lt;課題&gt;・学習習慣の項目については、定着していない生徒の数値を減らしていきたい。そのためにも家庭学習に適した教材等の研究・開発を行っていく。</p>

<英語>

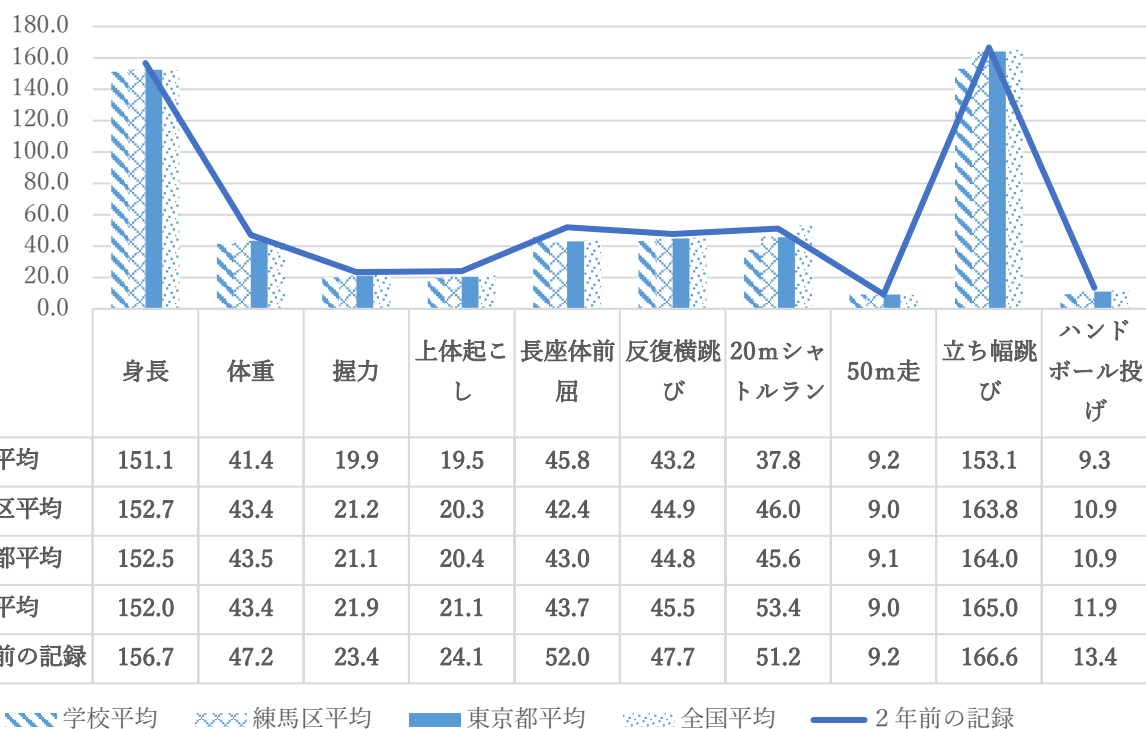
1	<p>&lt;成果&gt;・学習内容は概ね理解できているようである。授業内で継続的に既習内容を復習する機会を設けているためであると思われる。</p> <p>・パフォーマンステストでは生徒の技能を伸ばすために、既習の事項を活用できるような課題を設定できた。</p>
	<p>&lt;課題&gt;・知識はあるものの正確に書くことが苦手な生徒が多い。日常の授業では声を出して読むこと、話すことが重視されるが、正確に書くには継続的な自学自習が求められる。ただ自学自習を奨励するだけではよほど意識が高くなければ取り組めないため、教師が生徒に具体的かつ計画的に書く機会を与え、適切に評価する必要があるものと思われる。</p>
2	<p>&lt;成果&gt;・スピーチ・プレゼンなどの活動をするによって、既習の言語形式を活用できる機会を与えることができた。このような機会を増やし従来の文法の操作中心の授業から、よりコミュニケーション型の授業にしていく。</p>
	<p>&lt;課題&gt;・初めから言語材料を与えてしまえば生徒の「思考力・判断力・表現力」を測定することはできないので、日常の授業から生徒に考えさせる授業を設定する必要がある。</p>
3	<p>&lt;成果&gt;・「授業内容がわかる」と答えた生徒は8割近くいるため、理解しやすい授業デザインはできていると考えられる。</p> <p>・授業内の講義形式の説明をできるだけ少なくし、ペアで考え答えをシェアリングする等の形式を採用したことが一定の成果となっている。今後も主体的に授業に取り組むことができる方法を考えていく。</p>
	<p>&lt;課題&gt;・生徒が主体的に学習に取り組む態度を育てるには、家庭学習の充実が欠かせない。「わかる」と答えた生徒の割合に比べて「得意」と答えた生徒が少ないことから、授業内容は理解できるがその理解を定着させ発展させるための家庭学習が不足している。</p> <p>・生徒が主体的に学習に取り組めるような家庭学習の方法や意欲的に取り組めるパフォーマンステストを検討する必要がある。</p>

**3 東京都生徒体力・運動能力・運動能力調査結果** 練馬区立光が丘第二中学校 保健体育科



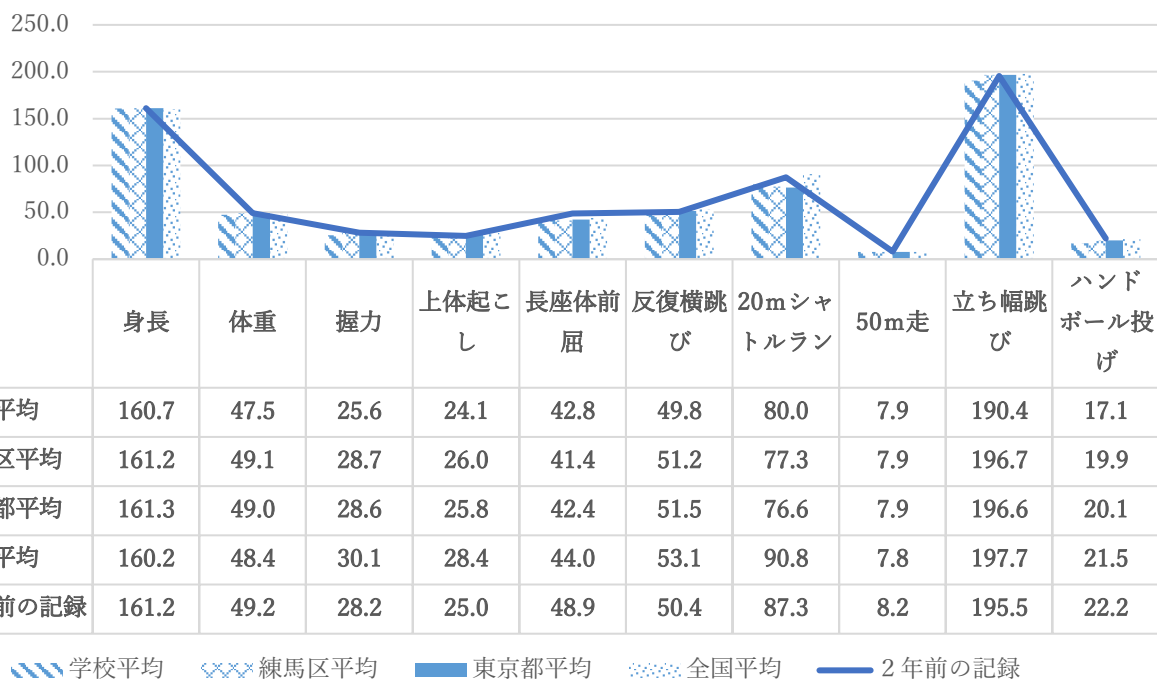
本校の記録と比較して、長座体前屈は全てにおいて高い記録となった。しかし、握力・上体起こし・立ち幅跳び・ハンドボール投げは全てにおいて低い記録となった。特に握力とハンドボール投げについては課題である。

## 1年女子 体力テスト結果



本校の記録と比較して、長座体前屈は全てにおいて高い記録となった。しかし、他の種目は全てにおいて低い結果となった。特に20mシャトルラン・ハンドボール投げは極端に低い結果なので改善が必要である。

## 2年男子 体力テスト結果



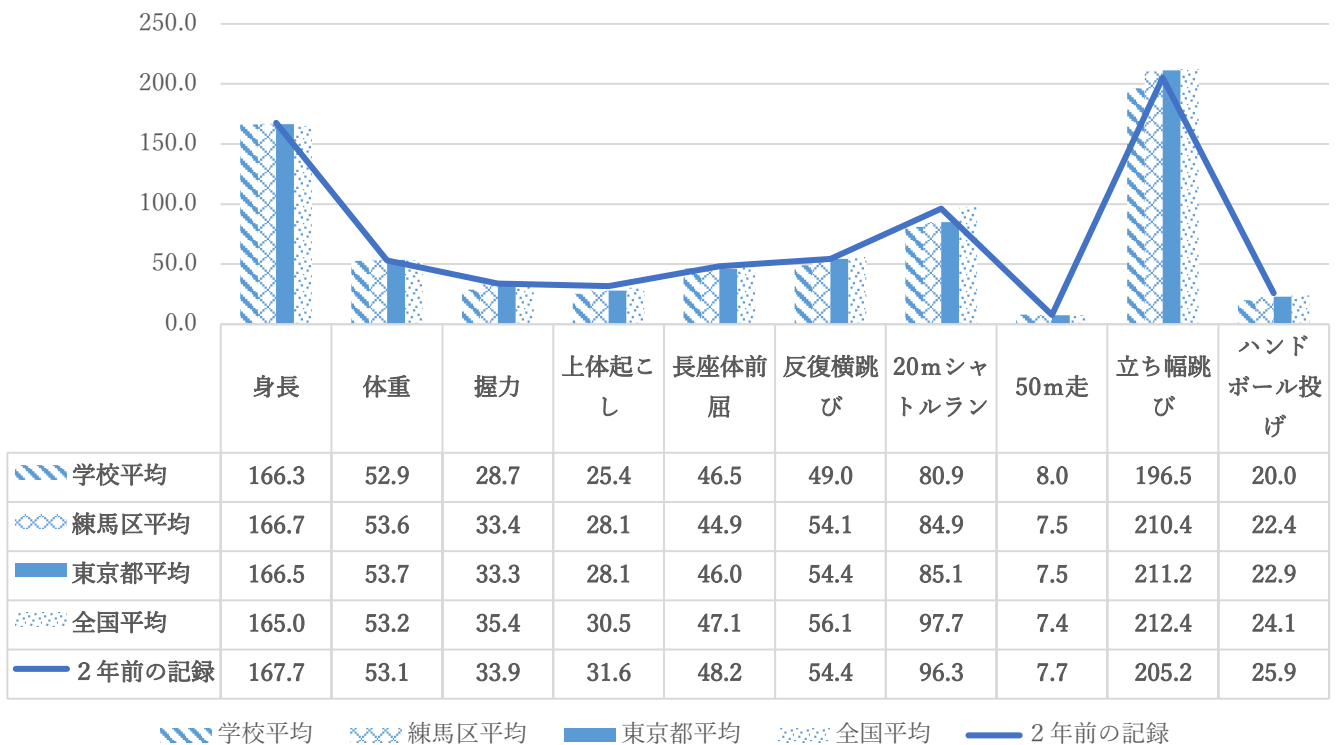
本校の記録と比較して、長座体前屈の練馬区平均と20mシャトルランの練馬区平均・東京都平均より高い結果になったが、他は全てにおいて低い記録だった。特に握力、上体起こし、ハンドボール投げは改善が必要である。

## 2年女子 体カテスト結果



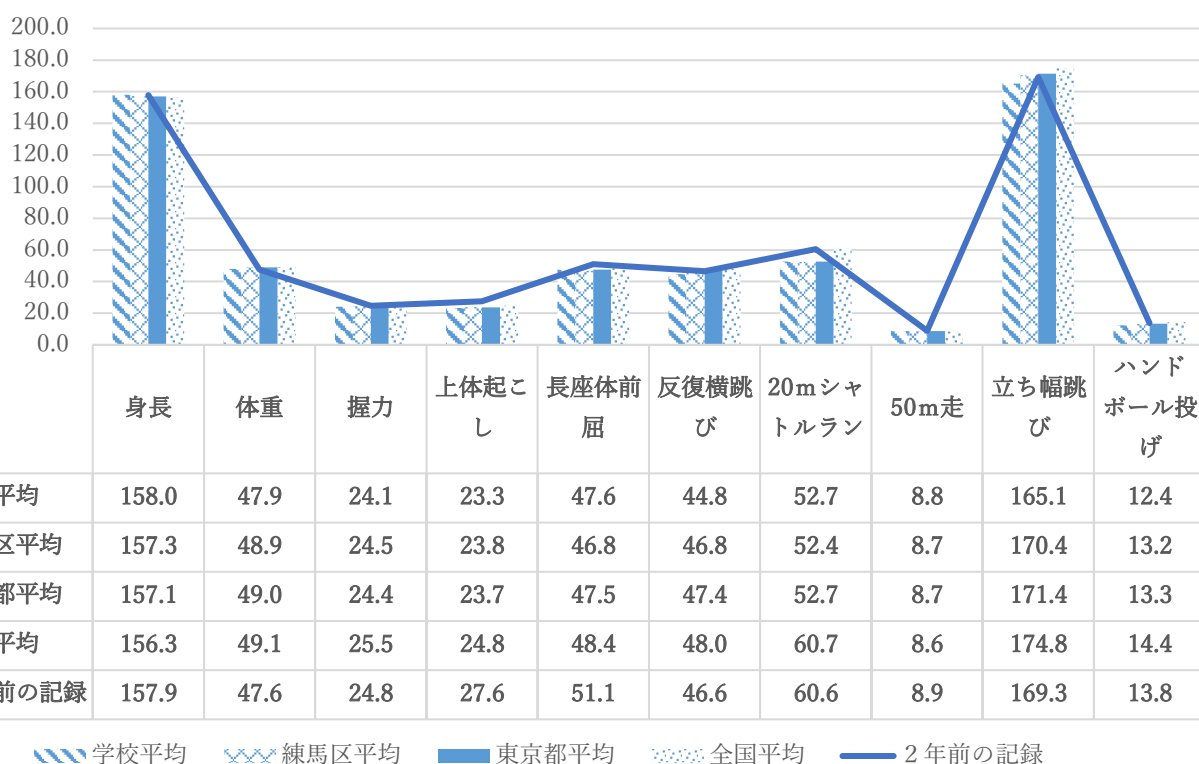
本校の記録と比較して、上体起こし・長座体前屈・反復横跳びは全てにおいて高い記録となった。しかし、他は平均よりも低い結果になっている。特に20mシャトルランとハンドボール投げについては改善が必要である。

## 3年男子 体カテスト結果



本校の記録と比較して、全てにおいて低い記録となった。特に握力・上体起こし・反復横跳び・50m走において改善が必要である。

### 3年女子 体カテスト結果



本校の記録と比較して、全体的に低い記録となっている。特に反復横跳び・立ち幅跳び・ハンドボール投げは改善が必要である。

### 全学年を通して

今回の測定において、練馬区平均・東京都平均・全国平均を上回る種目が少ない結果となった。また、2年前の記録と比較すると、大幅に下回った。

理由として、コロナ禍、感染拡大を防ぐために密集する運動を控え、放課後や週末の部活動に制限がかかる等、運動する機会が減ったこともその要因として考えられる。また、不要不急の外出を避けるようになり、屋外等で自主的に体を動かしていた時間や子供たち同士で遊ぶ時間が減ったことも体力低下に繋がる要因となった。

学校としては、コロナ対策を十分に行ったうえで、保健体育の授業において生徒の発達段階や体力状況に応じて運動量を確保した授業を行っていく。そして、生徒自ら体を動かしていくことができるよう、トレーニングメニューを紹介していく。また、昼休みに校庭で自主的に運動が行えるようにクラスボールを増やしていくことも生徒会と検討していく。

今後は、室内外において、個人でも行うことができるトレーニングメニューを考え実践し、休日や余暇を利用して、家族と一緒に体を動かす機会を増やすなど、コロナ禍においても感染対策を講じながら行える運動の仕方を考え、工夫していくことが大切である。日常生活の中に、運動を取り入れ、習慣化を図っていくことが体力の向上につながり、健康の保持増進に役立つものと考えられる。